川崎ジュニア文化大賞

六人で作る川崎の色

渡田小学校　６年生　中西　まつり

三月、母は兄の通う中学校に「ホームステイ説明会」に行くといって出かけて行きました。「ホームステイ」の言葉の意味も私は理解していなかったので、「兄が外国に遊びに行くのだろう。飛行機に乗ることはうらやましいな。でも私は英語も苦手だし、外国に行くことはないだろうな。」と思っていました。帰ってきて、私の顔を見るなり母が、「五月にインドの十五さいの男の子が来てくれることになったよ。楽しみだね。」と言いました。私はそのとき初めて、兄が行くのではなく、外国人が、しかもインド人がうちに来て、泊まるということだと理解して固まってしまいました。少し考えただけでも不安でいっぱいでした。

二ヶ月間、私の家では何度も作戦会議をしました。部屋や食事のこと。そして、最後まで悩んだことが「彼と一緒に何をしたいか。」ということです。

五月になり、彼が来る日になりました。金曜日の放課後、私は落ち着かなかったので、夕方まで友達と公園に遊びに行きました。夕食は好きなものを巻いてもらえたらいいなと考えた「手巻き寿司」です。母と弟と三人で家の前でむかえました。はじめに彼が言った言葉は、「ただいま」です。私はとてもおどろきました。はじめてくる家なのに、何を言っているのだろうと思いました。でも、なぜかうれしい気持ちになりました。

夕食後は、川崎の工場夜景を見に行きました。市営ふ頭から見るえんとつからの炎「フレアスタック」はかんげいしてくれるように大きく見えて、彼と私は写真をとり、兄はパンフレットとジェスチャーで彼に説明していました。川崎マリエンの展望台からは羽田空港も見えて、中央のジオラマでは私たちの家を探しました。その後、高速道路からたくさんの白い灯りを見せて、工場夜景が川崎にとって大事な灯りであることを伝えました。あっという間に一日目が終わりました。

土曜日の朝です。川崎大師へ向かいました。お参りをして、おみくじを引き、わらびもちを食べました。十一時半に予約をした昼食は、「インド人を日本のインドカレー屋さんに連れて行ってみよう」という作戦の元、カレー屋さんに行きました。店員さんと聞いたことのない言葉で話す様子を見て日本語、英語以外も言語は色々あるなと実感しました。食後に、川崎市役所の展望フロアへ行きました。天気が悪く遠くのものはあまり見えませんでしたが、多摩川の流れや川崎の昼のまちを一緒に見ることができました。一時の予約で、「切子」の体験へ行きました。それぞれグラスを作ることを選びました。何色かあるなか、彼と弟は赤、兄は緑、私は青を選びました。兄と弟はとても早く作品ができたのですが、彼と私はゆっくり作りました。彼の作品は、線や円の模様がとてもきれいで、インドにあるなにかがモチーフなのかなと想像しました。その後、東海道かわさき宿交流館へ行きました。作戦は「昔のかっこうをすること」ということで彼は旅人、兄は飛きゃくになっていて、きっとインドに帰ったら友達に見せられる

写真がとれたと思います。次は、十八時に、私と弟が習っている剣道を彼にも体験させようという作戦です。彼は、インドでクリケットやバレーボールをやっていてスポーツが得意だと聞いていましたが、剣道も上手でした。しかし残念ながら、インドには剣道がないそうです。二日目もあっという間に終わってしまいました。

三日目お別れの朝です。彼の希望で本屋さんへ行きました。私も好きなアニメの小説を買っていて、インドでも映画を見たそうで、ふりがなのあるバージョンでした。日本語の勉強の仕方は教科書だけではないのだなと改めて感じました。彼を送る時間が近づき、六人で学校へ行きました。他の家族より早く着きましたが、見送りに出たのは一番遅かったです。私は、悲しい気持ちもありましたが、それ以上に、もっと話しかけられたら良かったと思いました。

家に帰り、切子グラスを見ながらどこかで見た色の組み合わせだなと思いました。「そうだ！市役所のソファだ！」つまり「川崎の三色」です。川崎の多様性を表し、何色にもなる川崎を表現するブランドメッセージです。私の家族の最大の作戦は彼に川崎を紹介することでした。四人で作ったグラスを見て完成した気分です。

兄は勉強をますますがんばり、弟はインドに遊びに行きたいと言っています。私は、まずもう少しの勇気を出して人と関わることをできるようになりたいと思いました。インドに帰った彼からのメールには家族への感謝の気持ち、家族を絶対に忘れないと書いてありました。私も忘れません。次に会えるときはもっと話ができますように。